

17. 本院における過剰歯の処置について

○中尾 哲之

(福岡市・小児歯科中尾医院)

日常臨床において経験する永久歯咬合形成に悪影響を及ぼす因子の一つに過剰歯がある。過剰歯の影響としては、咬合異常や嚢胞形成、永久歯萌出遅延や歯根吸収、鼻腔内萌出等があげられている。我々、小児歯科医は患児の口腔管理を比較的早期から行っており、過剰歯その他の歯数異常を発見し易いばかりでなく、健全な永久歯咬合を誘導するに際し、それを妨害する因子を取り除くべき努力を払う必要があると考えられる。埋伏過剰歯、大半は上顎前歯部に出現するが、その処置については意見の分れる所であるが、主な問題点は摘出处置の必要性、摘出するとすればその時期であろうと思われる。私の医院でも何例かの過剰歯（大半は埋伏）を経験しており、抜歯、摘出等の処置も行っているが、その統計資料ならびに処置内容について報告したい。昭和55年3月より61年3月までの6年1カ月間に来院した新患3754名中、過剰歯を有していた者は100名で全体の2.7%（レントゲン撮影不可能な患児も多数いたので実際の出現率はもっと高いと思われる）であり、歯数は123歯である。それら100症例について性別、歯数、存在位置、方向、咬合異常の有無もしくはその可能性、処置内容とその時期について調査を行ったので紹介したい。